

平成25年度「逗子市学習状況調査」の分析結果（小学校）

〇はじめに

平成25年4月24日に「逗子市学習状況調査」が行われました。この調査は、逗子市の児童・生徒の学習状況を把握・分析し、各学校の指導方法の工夫・改善および児童・生徒の学習に役立て、市として必要な施策の策定に資するために行われたものです。実施内容は、市内小学校5年生とし、国語、社会、算数、理科の4教科で、神奈川県調査問題をもとに行われました。この分析結果を踏まえ、各学校において今後の指導方法の工夫と改善を図り、本市において教育施策の成果と課題を把握しその改善を図るよう努めたいと思います。

なお、ここでいう学力とはこの調査で測ることができた学力の一部であり、子どもたちの持つ学力全てを示すものではありません。

1 実施状況

- 調査実施日 平成25年4月24日
- 実施教科 教科に関する調査（国語、社会、算数、理科）
- 実施学校・学年・調査数 逗子市立小学校5年生 452名

2 逗子市の調査結果の概要（小学校5年生）

国語	<p>国語は、「書く能力」（1設問）の平均正答率が27.0%とやや課題を残す結果となりましたが、「読む能力」（4設問）が58.5%、「言語についての知識・理解・技能」（16設問）が62.8%と、概ね良好な結果となりました。</p> <p>「書く能力」は「分かったことをもとにして、自分の生活ややりたい職業などに関連付けて自分の考えを書く」部分のみ不十分な誤答が45.6%と、資料と関連付けて自分の意見を書くことができていないことがわかりました。「読む能力」では、文脈を把握することは90%以上が正答しましたが、二郎の心情変化を問う設問において正答率8.6%と課題を残す結果となりました。夏生の行動のみの記述で、心情の変化を引き起こす行動という結びつきのない記述が多く見られました。「言語についての知識・理解・技能」では、ローマ字の表記を問う4設問ともに、正答率9.7~20.4%と課題が残る結果となりました。無回答率についても18.1%~37.8%と他の設問に比べ空欄が目立ち、アルファベットに対する理解不足が示される結果となりました。訓の読み書きは、読みでは正答率は90%を超え、書きでも73%と概ね良好な結果となりました。また伝統的な慣用句も全て80%を超え良い結果となりました。</p>
社会	<p>社会は、「社会的な思考・判断・表現」（2設問）の平均正答率が84.3%、「観察・資料活用の技能」（11設問）が70.7%、「社会的事象についての知識・理解」（21設問）が76.5%と良好な結果でした。</p> <p>「観察・資料活用の技能」では、地図や資料の読み取りに関して課題が残る結果となりました。「社会的事象についての知識・理解」では、地名等では特に福岡県において43.9%と課題が残りましたが、老人の働きや苦心、廃棄物の処理はすべて正答率80%以上と大変よい結果でした。</p>

算数	<p>算数は、「数学的な考え方」（6 設問）の平均正答率が 63.1%、「数量や図形などについての技能」（13 設問）が 84.9%、「数量、図形などについての知識・理解」（5 設問）が 62.2%とおおむね良好な結果でした。</p> <p>「数学的な考え方」については、畑の面積を問う選択式の設問で、正答率が 24.6%と単位についての理解と、二つの数の関係の正答率が 43.5%と関係を表現することに課題が残りましたが、単位面積から大小の比較をしたり、面積を求める問題はどれも正答率が 80%以上と良好な結果でした。「数量、図形などについての知識・理解」では、分配法則についての理解を問う設問の正答率が 46.3%、そろばんを用いた小数の表し方を問う設問が 41.5%と、引き続き正確な知識の定着に課題が残りましたが、展開図の理解は 85.4%と良好な結果でした。</p>
理科	<p>理科は、「科学的な思考・表現」（13 設問）の平均正答率が 63.3%、「観察・実験の技能」（3 設問）74.1%、「自然事象についての知識・理解」（10 設問）が 69.2%とやや課題を残す結果となりました。</p> <p>「科学的な思考・表現」では、乾電池の数やつなぎ方についての 3 設問で、50%程度の正答率と課題が残る結果となりました。乾電池の数やつなぎ方を変えることによって、流れる電流の向きや強さも変化することに理解が不足していることが示されましたが、太陽電池の板と光を当てる角度は正答率が 96.5%、単位面積から総面積を考察する課題で正答率は 80%を超え、概ね良好な結果になりました。また、「あたためられた水はどのように水全体の中で温度変化があるのか」も 50%を切り、課題が残る結果となりました。また、ふたをした空き容器をお湯につけたときに膨らむ理由を問う設問で、正答率 33.5%と主語が抜けるなど不十分な説明が目立ちました。</p>

3 調査結果を踏まえた指導の改善

(1) 国語

書く能力	<p>自分の意見を述べるには、根拠を述べたり、その考えになった理由や経緯を述べたりすることが大切です。今回のような課題では資料から言えることを明確にし、自分の意見と関係するものだけを選び、その関係を述べる必要があります。そしてそれが、相手に伝わるように表現するという三段階の指導が望まれます。</p>
読む能力	<p>心情の変化を捉えるには、その心情の変化のきっかけになっている行動の変化を捉え、その行動によってどのように心情が変化したのかという結びつきを読み取るように指導することが大切です。</p>
言語についての知識・理解・技能	<p>熟語の習得にあたっては、漢字がもつ意味を組み合わせることで意味を考えさせることが、知識の定着に大切です。</p> <p>また、駅の表示や固有名詞など、日常にも学べる題材で、ローマ字の学習を促すことも大切です。</p>

(2) 社会

社会的な 思考・判断・ 表現	日常生活の「なぜ」について、多面的・多角的に捉える力を養うことが大切です。クラス内でディスカッションの機会を設け、日常の「なぜ」について、いろんな立場、角度から考えられることをまとめ、意見を出し合うことで、思考力・判断力・表現力の向上と視野の向上が期待できます。
観察・ 資料活用の 技能	図やグラフなどの資料の読み取り方は「そこからわかること」を考えさせながら指導することが大切です。何を表すために作られたかなど、本質的な分析を試みることによって、児童の思考力や判断力も養われることが期待されます。
社会的事象 についての 知識・理解	社会的事象については、一つひとつの要素の理解を深めることも大切ですが、要素と要素がどのように結びついているのか、その関係を見ることも大切です。「なぜ」「どうして」に注意し、興味を持って見ていくことで知識・理解をさらに深めていくことが必要です。

(3) 算数

数学的な 考え方	大きさについての見当をする際に、単位を理解することは大切です。学校の花だんなど、身の回りの面積を調べる活動を通して、単位についての感覚を養うことが必要です。また、二つの数の変化から、それら二つの数の関係がどのようになっているのか、具体的に数を操作しながら指導することが大切です。
数量や図形 などについて の技能	四則計算については（ ）内から計算することや、和や差の計算よりも積や商の計算を先に行うなど、優先順位のルールを教えるだけでなく、なぜその順番で行うのかを分かりやすく解説することが大切です。
数量、図形 などについて の 知識・理解	分配法則はどのような式を（ ）でまとめていったのか、また展開するとどうなるのか双方向の指導を行って理解させることが大切です。また、そろばんを位取りの考えや数を相対的に見ることの道具としてみることを意識させることで、整数・少数の仕組みの理解を視覚的にも促すことが期待できます。十進法と結びつけながら、そろばんのコマとの関係を示すことで理解を深めていく指導を行うことが望まれます。

(4) 理科

科学的な 思考・表現	電気回路において、乾電池の個数や、向き、つなぎ方を変えると、電流の向きや強さにも変化が起きることを実際の体験を通して変化を理解させることが重要です。また、つなぎ方によってなぜ電流が弱くなったり、向きが変わったりするのか、要因から説明することで電気回路の知識の定着が期待できます。また、金属や空気が熱せられるとどうなるのか、という結果だけでなく、なぜふくらんだり縮んだりするのかを説明できることが大切です。
観察・実験 についての 技能	観察をする中で、色々な角度から記録をとることは大切です。日付、天気、気温などの継続観察に必要な事項から、生物の様子についての絵や文章、また、長さや重さなどの数値情報まで、多角的に変化を追うことで成長の変化の要因を捉えることが重要です。
自然事象 についての 知識・理解	現象の因果関係をみたり、時間変化を捉えたりすることが大切です。水温の変化が水全体にどのように伝わるのかも時間変化の上で捉えるように指導することが望まれます。同時に名称と状態も正確に理解することが、電池のつなぎ方などで必要です。

